

株式会社アサカ理研 会社説明



代表取締役社長 山田 慶太
2016年6月30日

- 当社の概要
- 事業の内容
- 業績動向と株主還元
- 今後の成長戦略

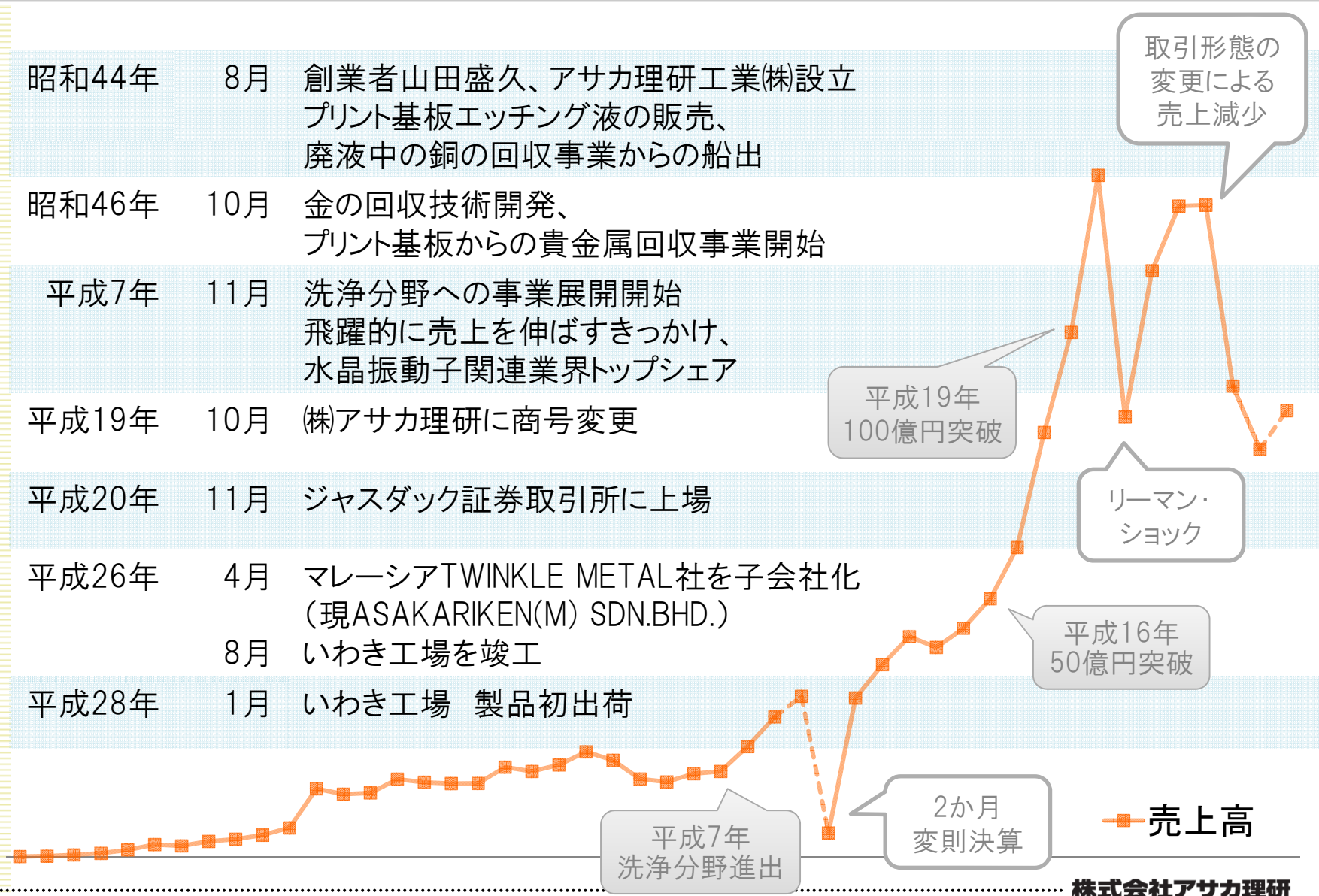


当社のプロフィール

| | |
|-------------|--|
| 社名 | 株式会社アサカ理研 |
| 本社 | 福島県郡山市 |
| 工場 他営業拠点 | [工場]本社工場・富久山工場(郡山市)・いわき工場(いわき市) [国内]大阪営業所(吹田市)・九州営業所(北九州市) [海外]台湾支店(台湾高雄市) |
| 関連会社 | アサカ弘運株式会社(郡山市) ASAKARIKEN(M) SDN.BHD.(マレーシア国ペナン州) 株式会社ASAKA SOLAR(郡山市) |
| 設立 | 昭和44年8月 |
| 資本金 | 5億4百万円 |
| 従業員数(単体) | 139名(平成27年9月30日現在) |
| 主要な事業内容 | 貴金属の回収精製、工業用薬品の製造 |
| 決算期 | 9月30日 |
| 上場市場 | 東京証券取引所 JASDAQ市場 スタンダード (平成20年11月、ジャスダック証券取引所に上場) |
| 証券コード | 5724 |
| 単元株式数 | 100株 |



当社の略歴



当社の特徴

溶かす

液体の中に入れて
液状にする



溶かす

熱を加えて
液状にする



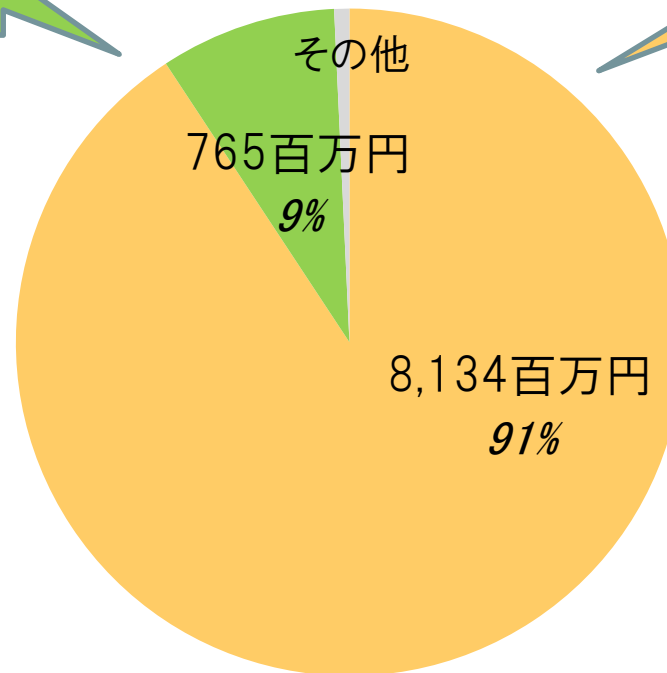
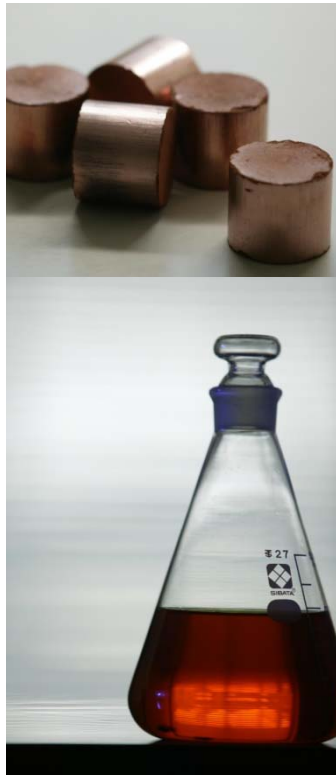
薬液を用いた化学的処理により
廃棄物や不良品等に含まれる希少金属を
「溶かして」取り出す
資源再生を行なっています

- 当社の概要
- 事業の内容
- 業績動向と株主還元
- 今後の成長戦略

当社の2つの中核事業

事業別連結売上高の構成比
(平成27年9月期)

環境事業



貴金属事業



貴金属事業

掘りつくすことのない都市鉱山
独創技術がまた新たな鉱脈を誕生させる

回収事業

①

有価金属を含む不良品等を集荷し
有価金属を効率的に回収・精製

洗浄事業

②

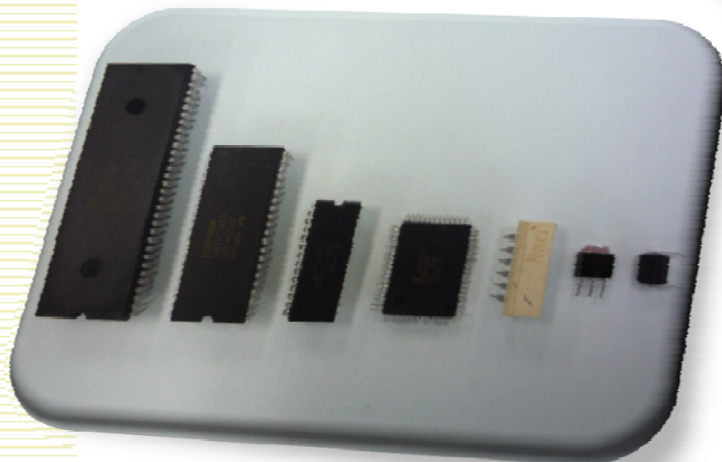
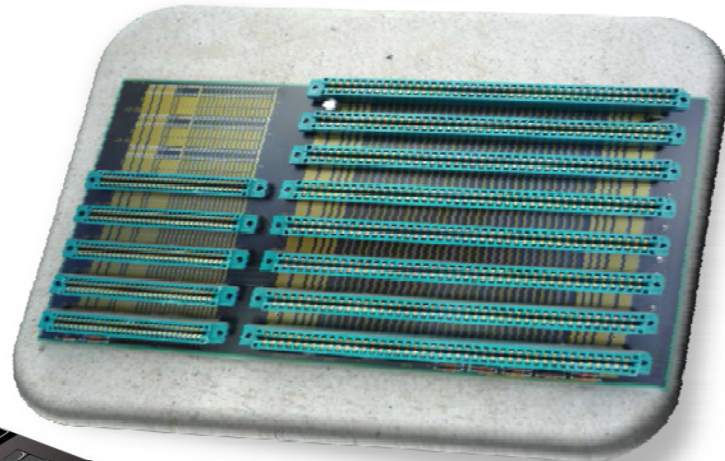
使用済み治具の精密洗浄による
治具の再生および有価金属回収



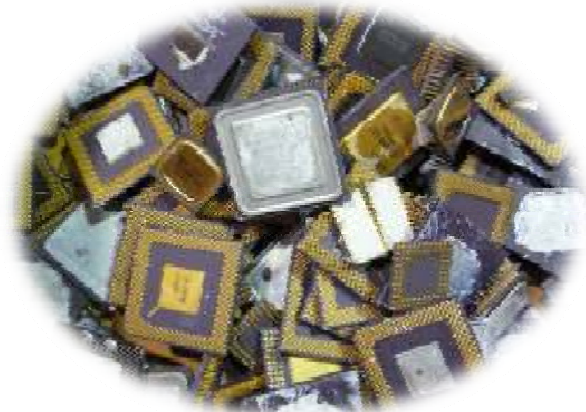
貴金属事業(回収事業)



パソコンの電子部品



製造工程で発生した コネクタ屑、基板屑



回収・精製



回収・精製工程②





貴金属事業(洗浄事業)



電子部品メーカー

貴金属成膜装置の治具・部品

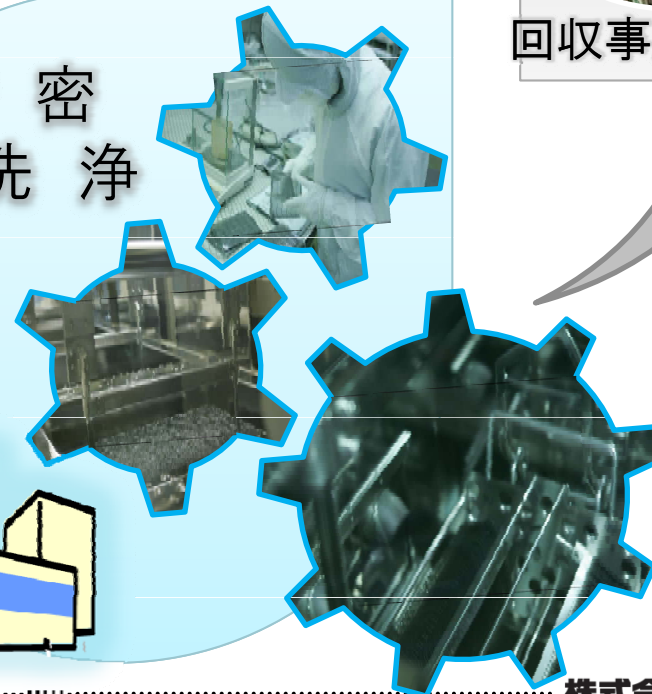


回収事業



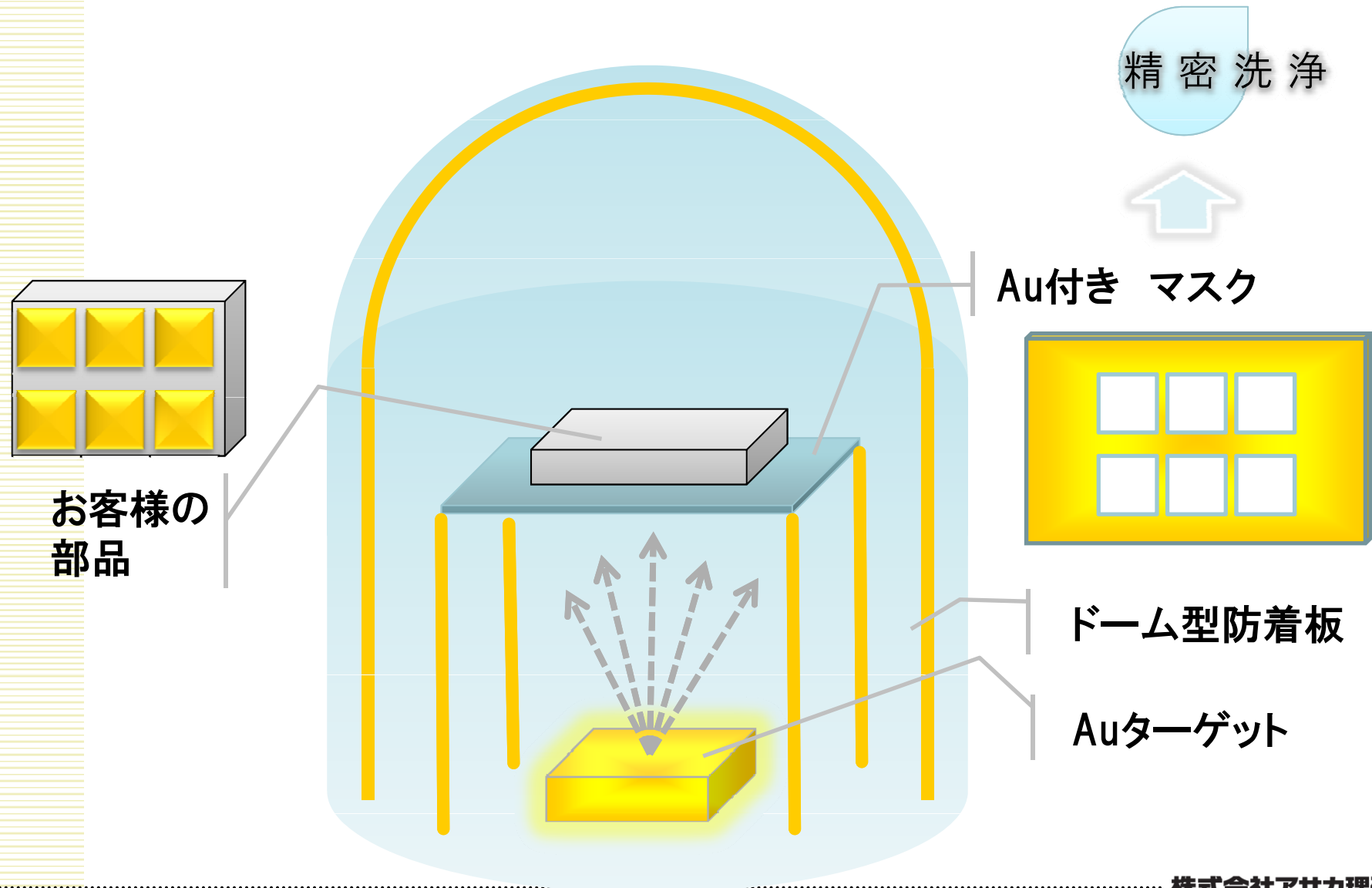
集荷

精密
洗浄



株式会社アサカ理研

真空蒸着装置のイメージ



貴金属成膜装置の部品

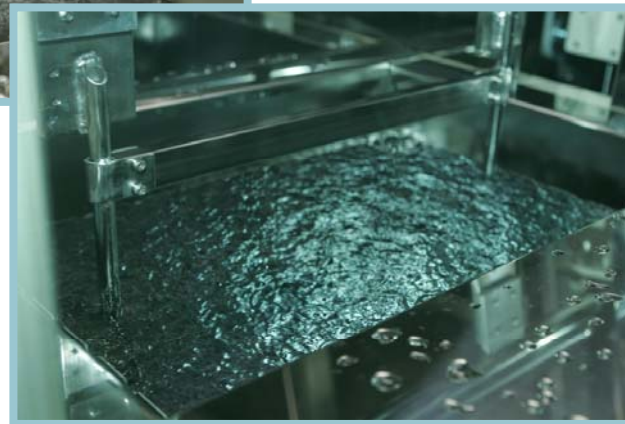


洗 浄



マスク洗浄工程

純水超音波洗浄



洗浄品最終目視検査



お客様の要求事項

装置部品の
機能を維持した
高品質洗浄

貴金属の
高い回収率

予備部品を減らせる
短納期

価格競争力に直結

貴金属・レアメタルの

選択的剥離技術

独自の薬液配合により金属の溶解速度をコントロール
母材にダメージを与えない洗浄技術

溶媒抽出法による

分離・精製技術

スピーディーかつ回収率のよい分離・精製技術である
溶媒抽出法を他社に先駆けて実用化

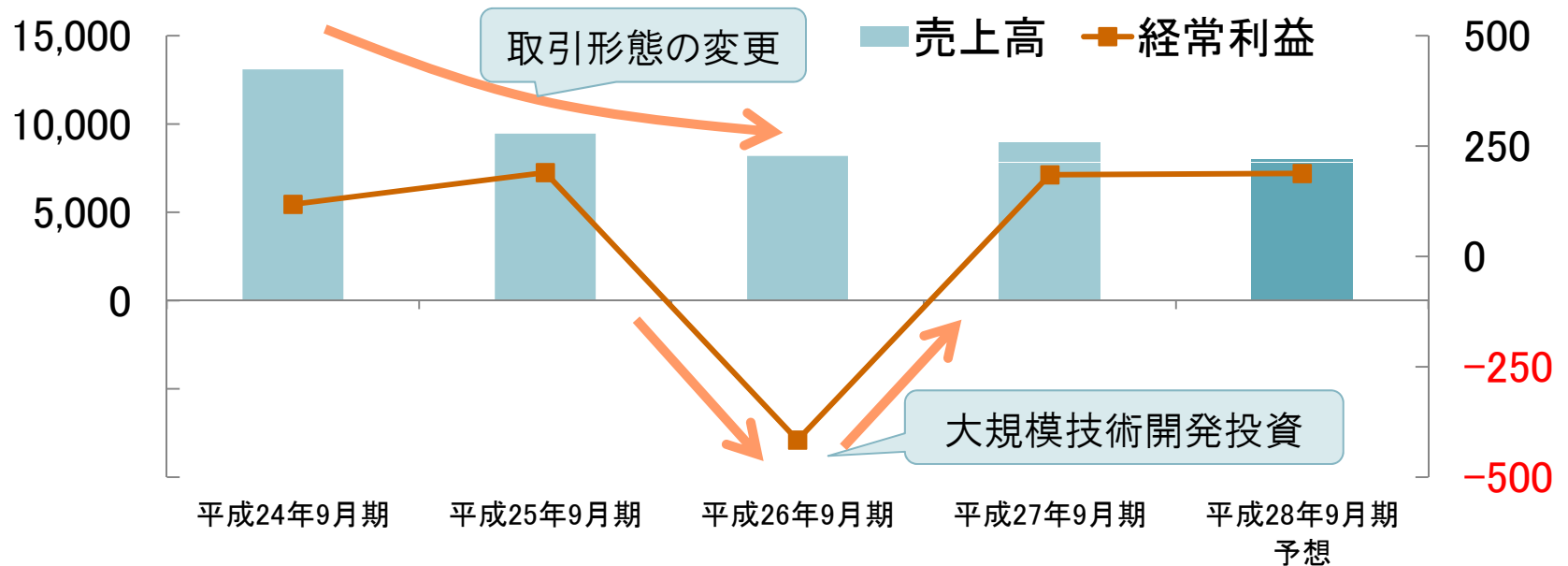
歴史と最先端が共存
創業の土台を活かし環境保全に貢献する



- 当社の概要
- 事業の内容
- 業績動向と株主還元
- 今後の成長戦略

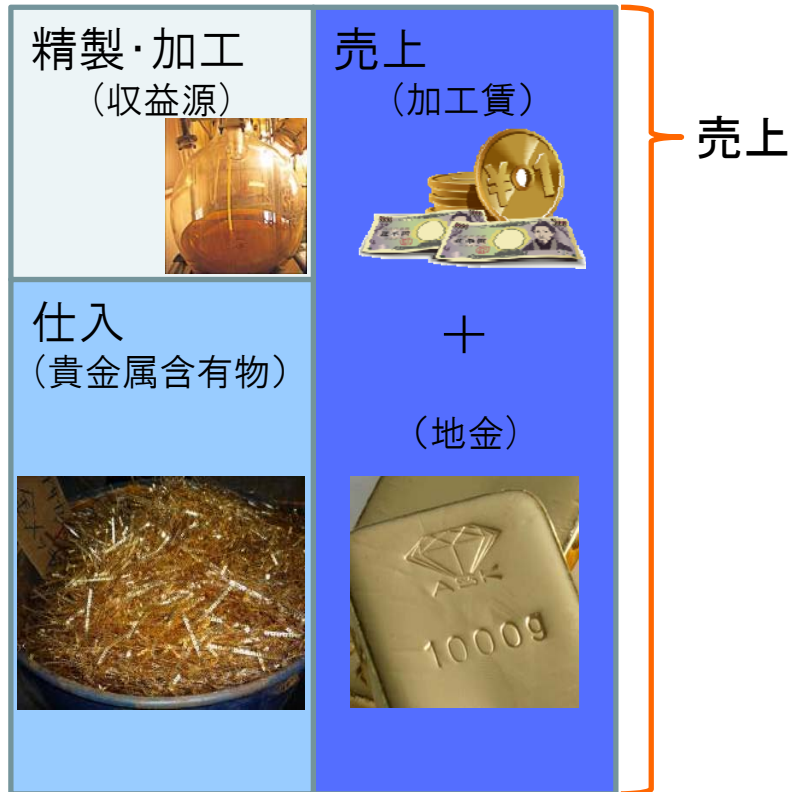
直近の業績推移

| | 平成24年 9月期 | 平成25年 9月期 | 平成26年 9月期 | 平成27年 9月期 | 平成28年 9月期 予想 |
|------|--------------|--------------|--------------|--------------|-----------------|
| | 金額 (百万円) | 金額 (百万円) | 金額 (百万円) | 金額 (百万円) | 金額 (百万円) |
| 売上高 | 13,093 | 9,456 | 8,189 | 8,964 | 8,000 |
| 営業利益 | 249 | 203 | ▲ 402 | 210 | 205 |
| 経常利益 | 118 | 190 | ▲ 416 | 185 | 188 |
| 純利益 | 73 | 116 | 26 | 125 | 244 |

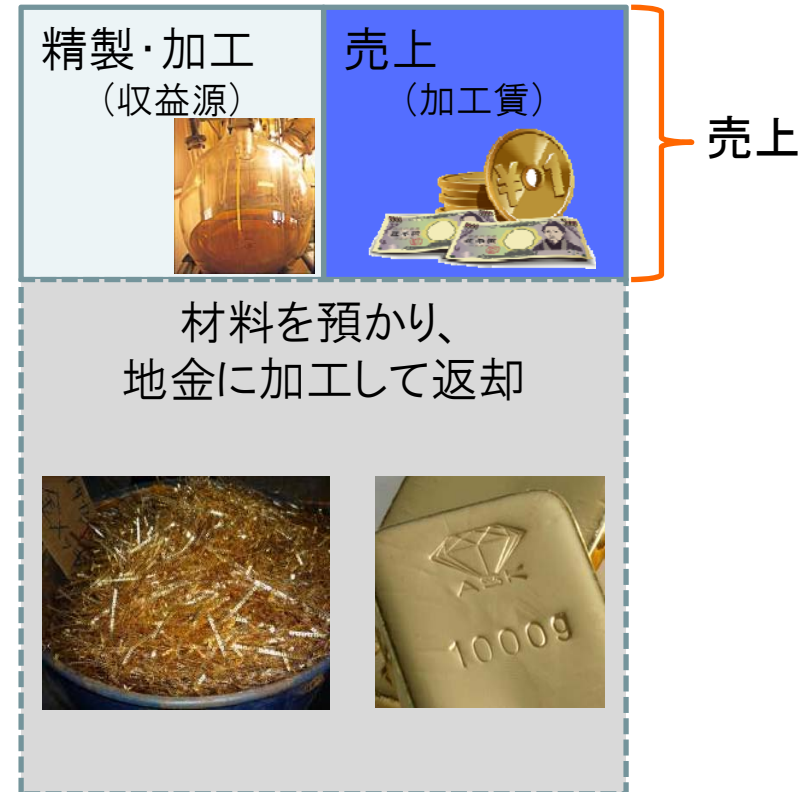


受託加工取引について

■ 売買取引

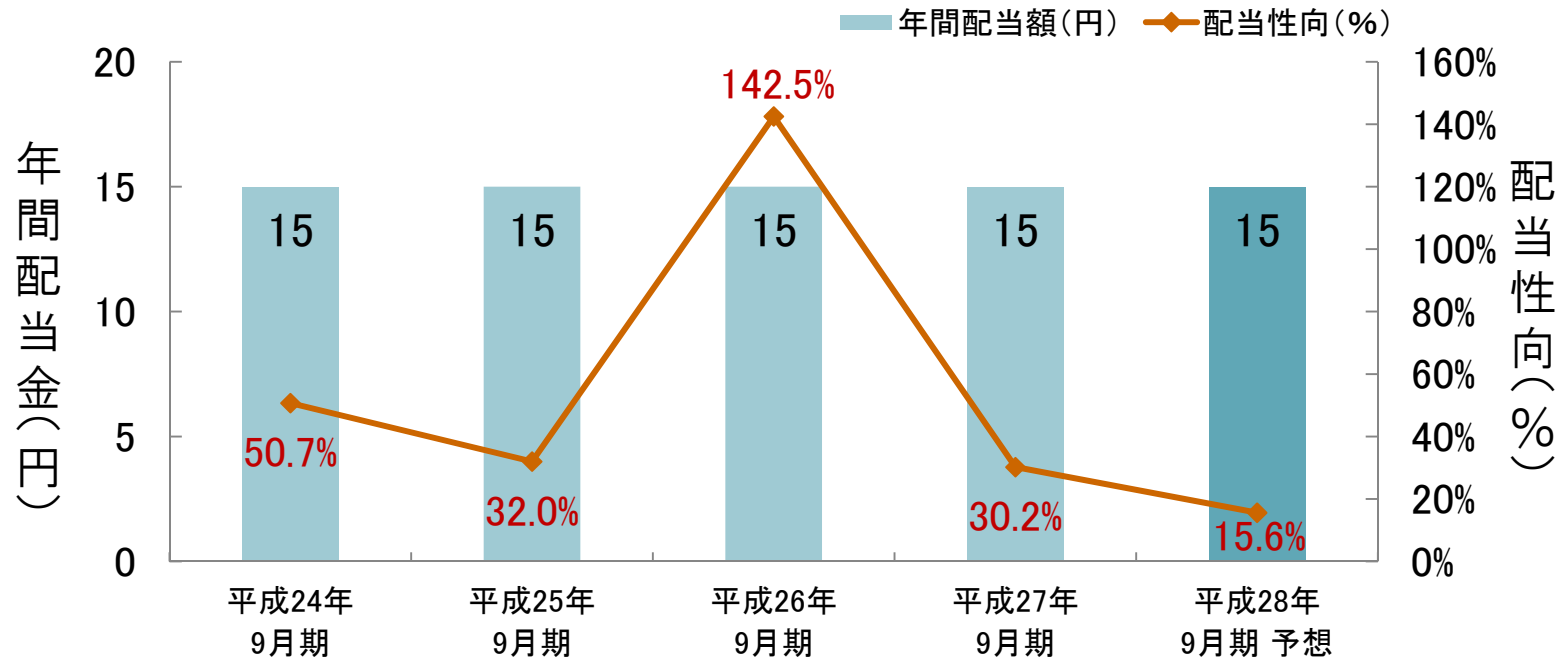


■ 受託加工取引



売上の減少は、「売買取引」から「受託加工取引」への移行によるもの
 売上の減少 ≠ 取引の減少
 取引形態の変更による利益への影響はない

株主還元について

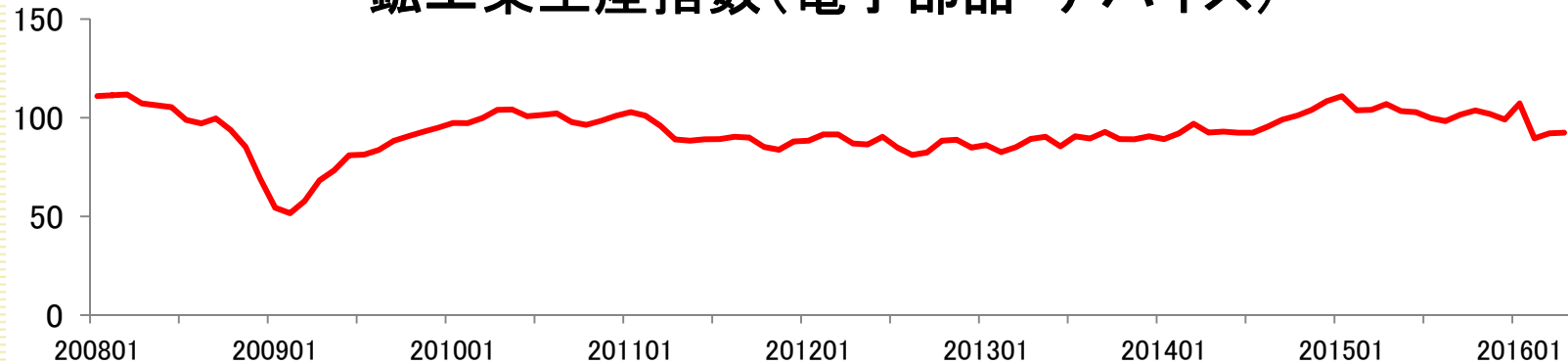


株主の皆様に対する利益還元を経営の重要政策と位置づけ、安定配当を継続的に行うとともに、企業体質の強化と内部留保の充実等を勘案しながら、業績に裏付けられた成果の配分を基本としております。

- 当社の概要
- 事業の内容
- 業績動向と株主還元
- 今後の成長戦略

成長戦略

鈹工業生産指数(電子部品・デバイス)



出所:経済産業省発表 鈹工業指数(生産・季調済み)

当社の事業規模は、概ね電子部品業界の国内生産動向と連動
主力製品である金(Au)の相場が利益に与える影響大きい



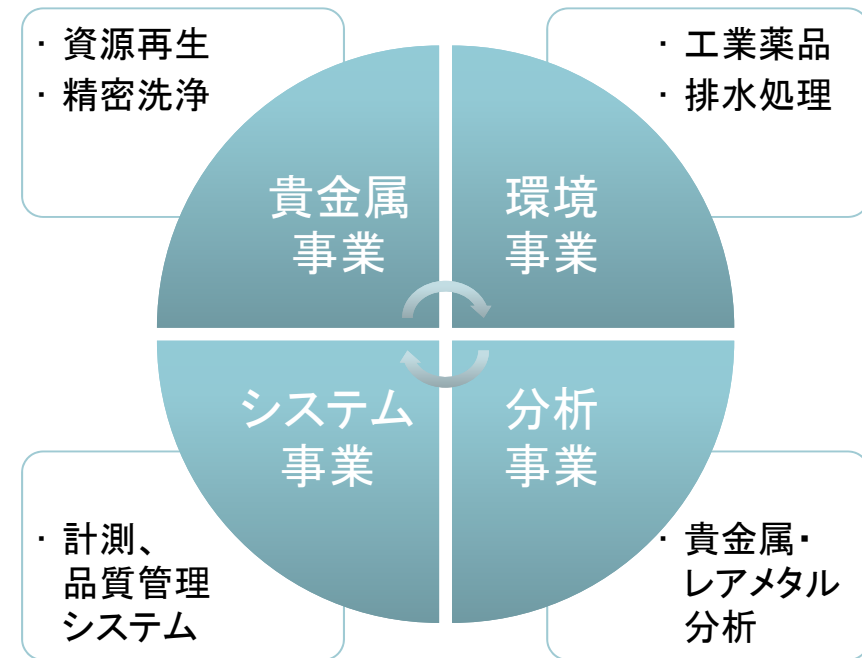
- 現状の収益基盤である国内事業のシェア拡大
- 新事業開発による事業領域の拡大

→外部環境の影響を抑えて安定的な成長へ

国内シェアの拡大策

【事業環境認識】

- ・自動車、IoT分野など
電子部品業界の成長期待
- ・既存の事業領域においても
当社シェアの拡大余地あり



- 組織再編によって営業力を強化し、シェアアップを図る
- アサカ理研の総力を結集したトータルサポート提案
- 資源回収から装置メンテナンス、排水処理、分析、システム開発まで
→お客さまの競争力向上に繋がる

課題解決のパートナー企業へ

新事業開発による成長

新事業を創出することで
外部環境の影響を相対的に引き下げ
安定した成長を目指す

技術開発による
材料販売の拡大

- ・コア技術を元に、**レアメタル・レアアース**をスクラップ等から安価に回収
- ・コア技術を活かし、**付加価値の高い材料**の提供

既存の技術を活かした
地域的な拡大

- ・マレーシアを足がかりとして**東南アジアへの進出**

レアメタル・レアアース製品事業①

レアメタル

※「地球上の存在量が稀であるか、技術的・経済的な理由で抽出困難な金属のうち、安定供給の確保が政策的に重要」な非鉄金属（経済産業省による定義）。31鉱種

レアアース

※31鉱種あるレアメタルの一種で、17種類の希土類元素の総称
セリウム[Ce]、ランタン[La]など

高機能材

希土類磁石
小型モータ

電子部品

液晶

小型二次電池

燃料電池

排気ガス浄化

製品の小型軽量化・省エネ化・環境対策

次世代自動車

成長期待

次世代自動車

携帯電話・パソコン

デジタルカメラ

テレビ

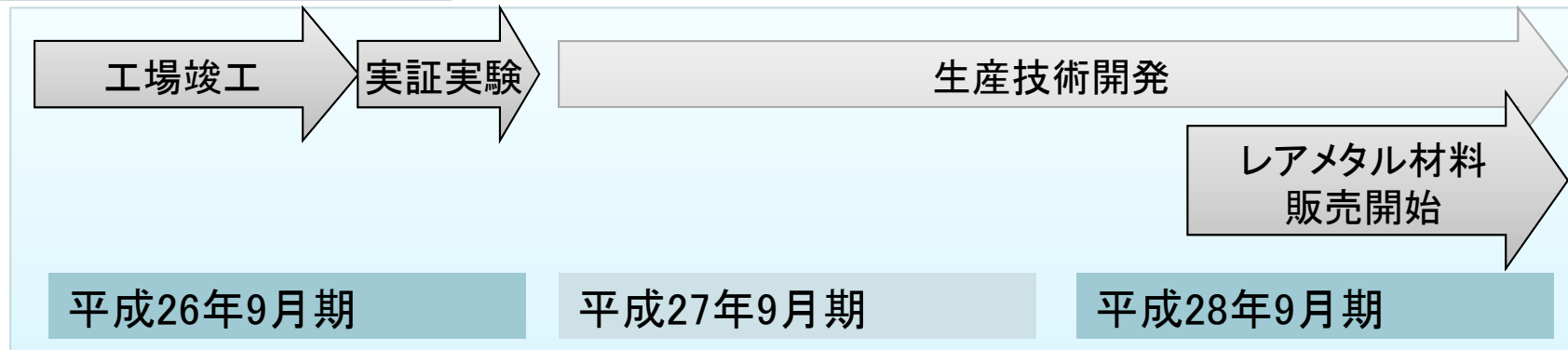
コジェネ
レーション
システム

IoT

成長期待

レアメタル・レアアース製品事業②

事業スケジュール



成長期待分野

自動車向け電子部品

自動運転など、自動車の電子制御化の進展により、搭載される高機能・高精度の電子部品の需要が増加する。

IoT(モノのインターネット)

あらゆるモノがインターネットに接続する時代が到来し、センサーや、通信のための電子部品の需要が増加する。

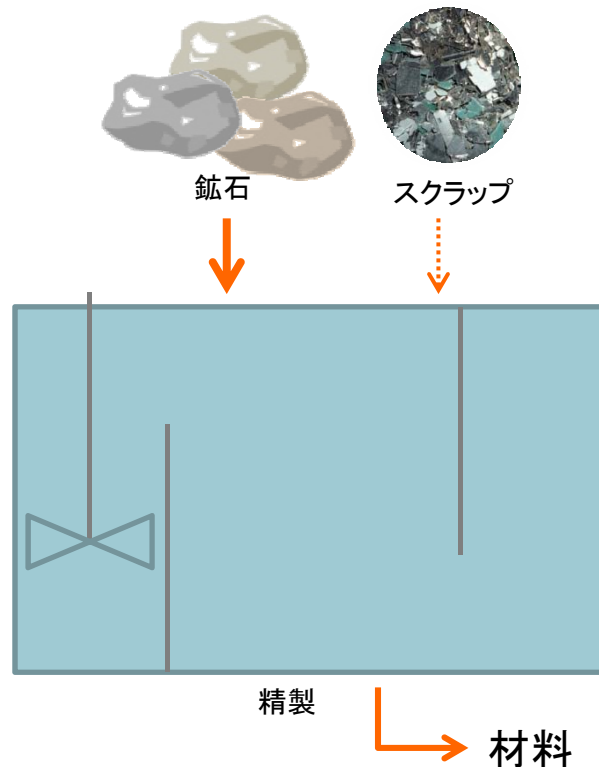
→これらの成長産業へ、高付加価値の材料を提供
リサイクルの新技术により、原料調達を多様化

エマルションフロー法のメリット

- 従来法では、水と油の混合に攪拌機(動力)を使用するが、エマルションフロー法は、ポンプによる送液のみで混合が可能
→ **低コストで処理**が可能
- 水と油の分離スピードが速く、従来法のおよそ10倍の処理速度を実現できる
→ **精製時間の短縮、装置のコンパクト化**を実現
- 排水への油の混入が少なく、**環境にやさしい**
- **様々な組成の原料**から、**高純度の精製**が可能

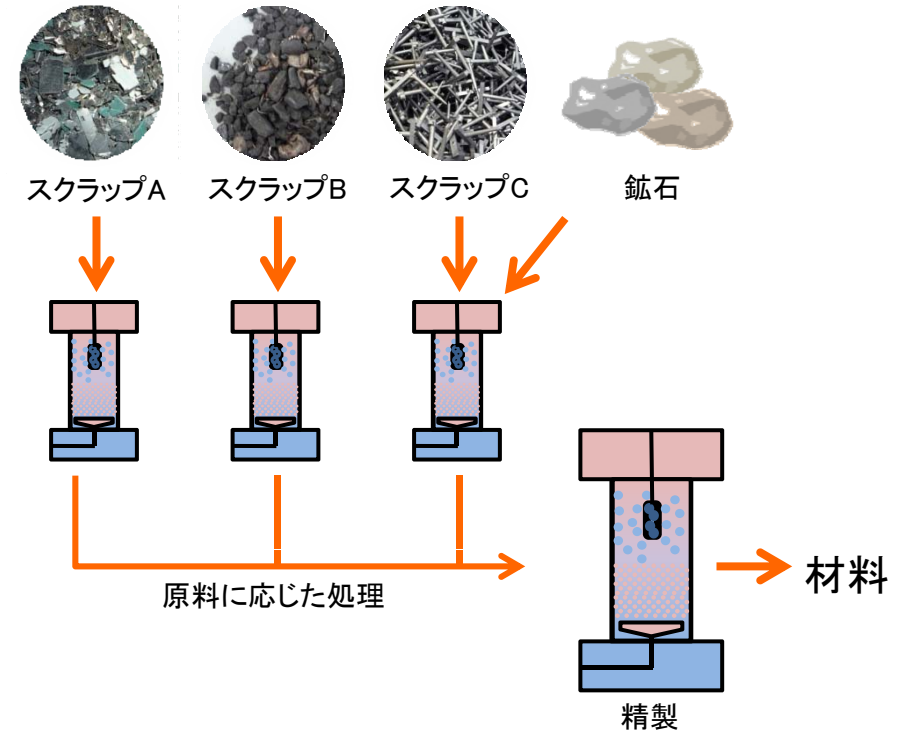
エマルションフロー法の優位性

■従来法の大型装置



- ・単一の安定した原料を要する
- ・原料の変更に耐えられない

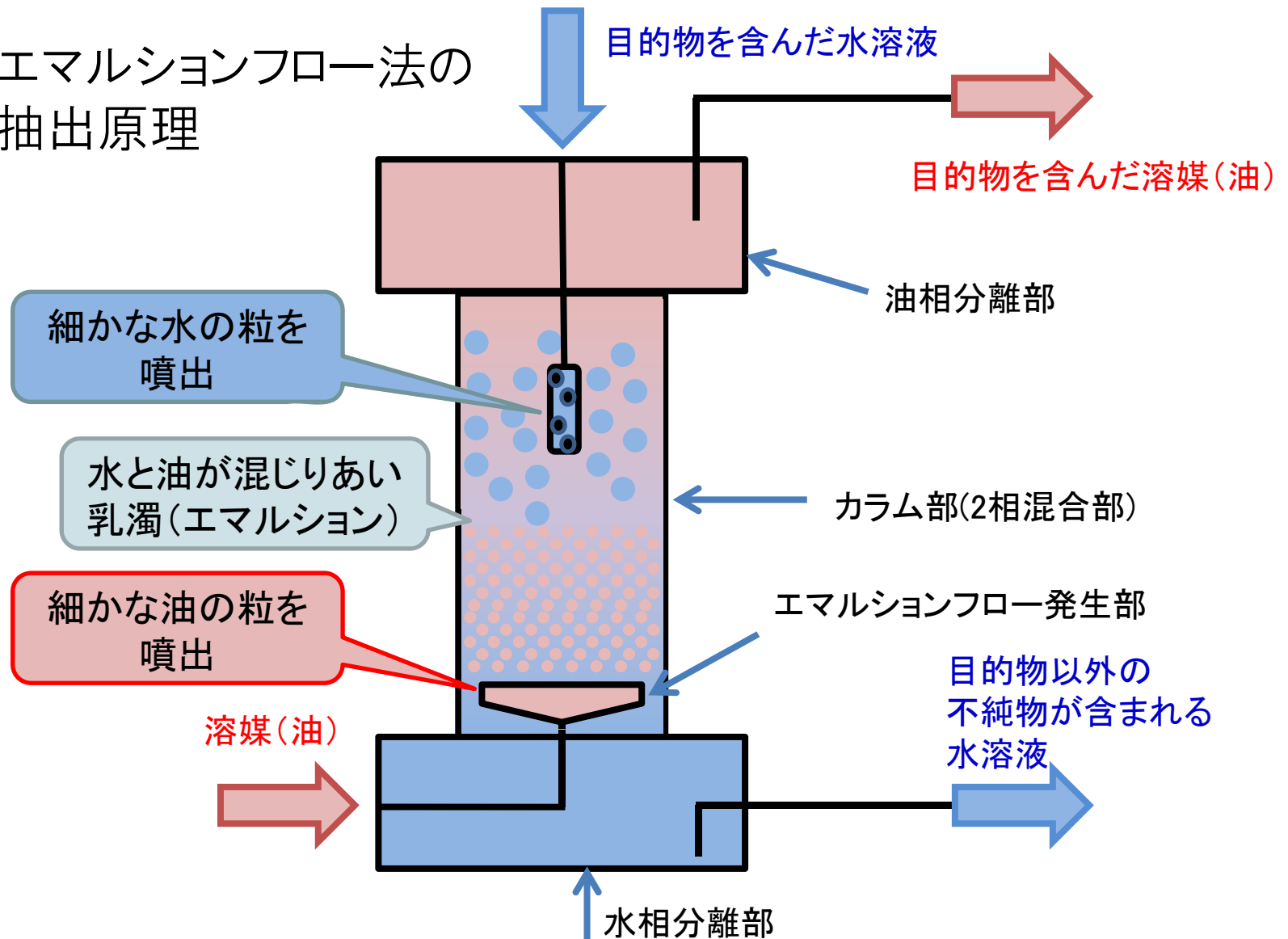
■エマルションフロー法の小型装置



- ・小型で安価な装置で複数の多様な原料を並行処理
- ・原料の変更による段取り替えも容易

レアメタル・レアアース製品事業⑤

■ エマルションフロー法の抽出原理



海外事業①(TWINKLE METAL社買収について)

電子部品メーカー各社も進出しており、
成長著しい東南アジアを中心に市場調査
→マレーシアペナン州に本社を置く
TWINKLE METAL社(現ASAKARIKEN(M))の
株式を60%取得

アサカ理研
貴金属
回収技術



TWINKLE METAL社
処理ライセンス
現地ネットワーク



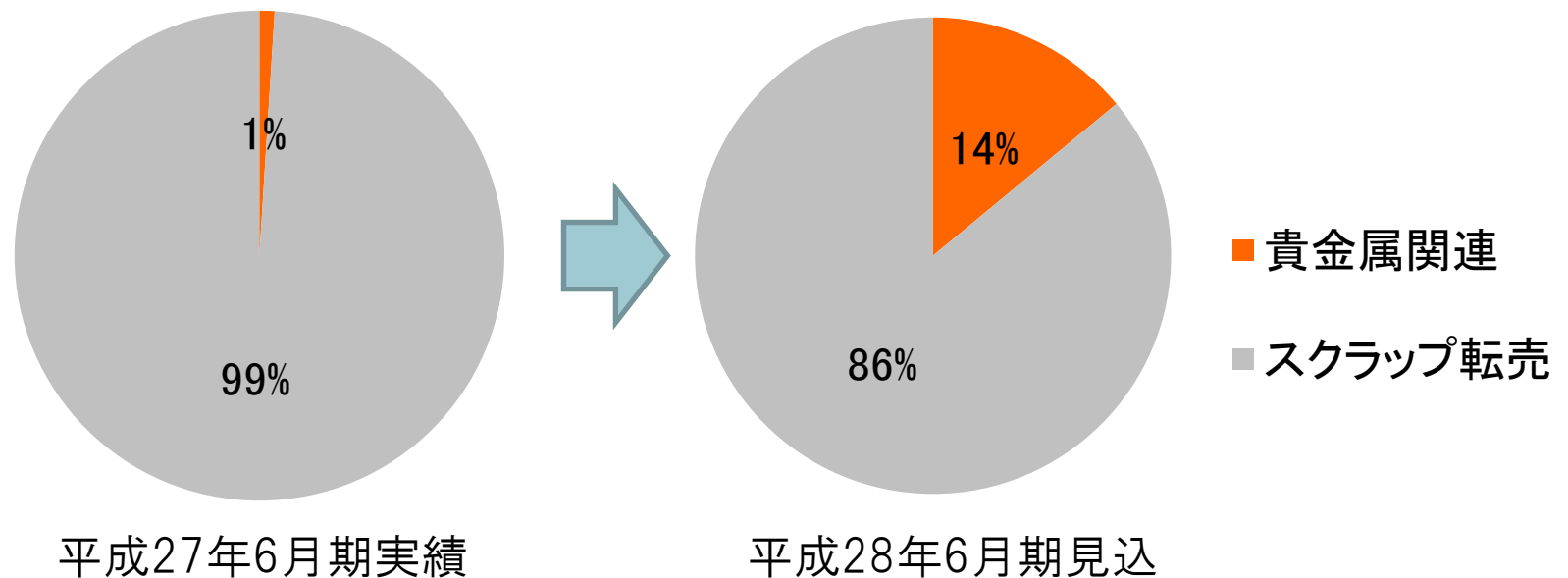
東南アジア
地域での
事業拡大



海外事業②(事業転換の進捗)

- 従前の鉄や銅などのスクラップの転売から、
貴金属等の回収へと事業転換が進み、収支が改善
- 単月黒字化を達成、貴金属関連事業の実績を積み上げ
シェア拡大へ

ASAKARIKEN(M)単体売上高構成





お問い合わせ先

IRに関するお問い合わせは下記までお願いいたします

株式会社アサカ理研 経営企画室

〒963-0725

福島県郡山市田村町金屋字マセロ47番地

TEL:024(944)4744

FAX:024(944)4749

E-MAIL: ir@asaka.co.jp

URL: <http://www.asaka.co.jp/>

本資料の取り扱いについて

- 本書には、当社及び当社グループに関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により、実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 本書は、いかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込み又は買付けの申込みの勧誘(以下「勧誘行為」という。)を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。

MEMO